

# 平成29年度・第2回島根県農政審議会 次第

日 時：平成30年3月26日(月) 13:30～  
場 所：島根県職員会館 多目的ホール

## 1 開 会

## 2 農林水産部長あいさつ

## 3 議 事

(1) 平成30年度主要事業の概要について

資料1

(2) 新たな農林水産業・農山漁村活性化計画第3期戦略プランの  
取り組み状況について

① 県共通プロジェクトについて

資料2

② 地域プロジェクトについて

資料3

③ プロジェクトの変更・追加について

資料4

## 4 その他

(1) 県農業振興に関する目標設定について

資料5

## 第2回島根県農政審議会・出席者名簿

分野	氏名	勤務先(所属団体)・役職	出欠	
市町村	カゲヤマ ヨシキ 景山 良材	美郷町長	出	
関係団体	カゲヤマ ヨシカズ 影山 喜一	JA島根中央会常務理事	出	
学識経験者	大学	タニグチ ケンジ 谷口 憲治	就実大学教授、島根大学名誉教授	出
	マスコミ	マエダ コウジ 前田 幸二	山陰中央新報社特別論説委員	出
	ツーリズム	ササキ キョウコ 佐々木 京子	株式会社 扇原茶園	出
農業者	個人経営	イジリ ヨシノリ 井尻 義教	和牛繁殖	出
	個人経営	フジエ ミユキ 藤江 美由紀	ブドウ	出
	個人経営	キッカワ ヒロエ 吉川 裕江	水稻、施設野菜	出
	集落営農	ワタナベ イクコ 渡邊 育子	(有)赤雁の里、施設園芸	出
消費者	流通	ヨネハラ ケンジ 米原 健二	松江連合青果(株)社長	出
	流通	タカハシ ハルミ 高橋 晴美	高橋米穀、(株)ほんき村	出
	流通	リョウケ ヤスモト 領家 康元	(株)キヌヤ社長	欠

県関係者	松浦 芳彦	農林水産部 部長
	多久和 卓志	〃 次長
	栗原 一郎	〃 参事
	森上 浩平	農業経営課 課長
	長野 正己	農産園芸課 課長
	山本 智之	〃 食の安全推進室 室長
	堀江 正信	〃 水田農業GL
	川津 章弘	畜産課 課長
	山木 康嗣	〃 企画・危機管理スタッフ 企画員
	福間 直	しまねブランド推進課 課長
	角森 章子	〃 6次産業推進スタッフ 調整監
	福田 誠	〃 農林水産品GL
	田和 貢	農村整備課 課長
	足立 和彦	農地整備課 課長
	今岡 貢	〃 国営対策室 企画幹
	多根 純	森林整備課 鳥獣対策室 室長
	小草 正樹	隠岐支庁農林局 総務企画部長
	柏原 仁	〃 総合振興スタッフ 調整監
	中村 純一	東部農林振興センター 所長
	石倉 秀樹	〃 調整監
	田邊 裕彦	西部農林振興センター 所長
	大畑 元造	〃 総合振興スタッフ 調整監
	鳥屋尾 健史	農林水産総務課 政策推進スタッフ 管理監
	武田 昌司	〃 〃 企画幹
	鳥谷 隆之	〃 〃 主任

## 平成29年度第二回・島根県農政審議会（概要）

日 時：平成30年3月26日（金）13：30～16：00

場 所：島根県職員会館 多目的ホール

出席委員：谷口委員、前田委員、影山委員、景山委員、渡邊委員、米原委員  
高橋委員、佐々木委員、井尻委員、藤江委員、吉川委員

県出席者：松浦部長、多久和次長、栗原参事ほか関係職員

### 1 開 会

### 2 農林水産部長あいさつ

### 3 議 事（内容と主な意見、質疑）

#### （1）重点的施策の方向及び平成30年度主要事業等を担当課から説明

○美味しまね認証を飛び超えて、GAPを速やかに進めていくことが大事ではないか

⇒今後、指導員が中心となって生産者の方に説明し、GAPを導入して美味しまね認証をとっていただく取組みを強化していきたい。

美味しまね認証からJGAP、グローバルGAPへのステップアップ、あるいは、いきなりJGAPやグローバルGAPもあると考えており、普及部を中心に支援していきたい。

○「しまねのおいしい食GUIDE」の中に、産直を利用する方々からの良い情報も併せて載せてはどうか

⇒今はスマートフォンで様々なデータを見ることができるので、SNSの中で会話が弾むと情報発信につながると思っている。

また、県境に近い産直市では県外から来られた方がお土産として買われる場合があるので、産直市の商品ラインナップや商品の見せ方も違うことから、情報発信のやり方も考えなくてはならないと思っている。

286ヵ所ある産直市が、それぞれ個性を出して、皆さんが元気になるような取組みにつなげていきたいと思っている。

○半農半Xではなく、本気で就農を始めるような人をもっと支援していくべきではないか  
⇒現在約50名の半農半Xの取組みがあるが、うち何人かは専業としてステップアップされた方もおられる。

一方で、仕事をしながら地域に合った形で農業を展開していらっしゃる方も多く、地域への定着という意味合いで、役場やJAがバックアップしながら地域の状況を踏まえた中で対応ができていると思っている。

平たん部の条件の良いところでは、専門的な就農を支援する取組みがかなり進んでいるが、中山間地域では、定住との兼ね合いで地域の担い手になっていただこうということで、半農半Xの取組みが功を奏している。地域性の違いがあるのが現状となっている。

○GAPの取組みは、消費者にも認証を取ることを意味合いを知らせる取組みをしていくべきでないか

⇒GAPについては、まだ消費者に認知されていないという状況がある。美味しまね認証にしても同様の状況であるのはご指摘のとおり。

今後は生産者や消費者、流通関係の方などに、もっとGAPや美味しまね認証を知っていただくように、引き続き手法を工夫しながら取り組んでいきたい。

○種雄牛造成強化対策として新たに超優秀雌牛を導入するとあるが、今後の予定としてはどのように進めていくのか

⇒全国トップクラスの種雄牛「久茂福」という種雄牛をしっかりと使って、次の雌牛を残してもらうのが雌牛対策。

それだけでは先がないので、県内の優秀な雌牛を買わせていただいて、優秀な雄をつくっていく取組みを始める。この中から遺伝子を調べて、より能力の高いものを見つけ出して、確実に次の世代の優秀な種雄をつくっていかうという取組み。

## (2) 新たな農林水産業・農山漁村活性化計画第3期戦略プランについて県庁、地方機関の担当課が説明

○小さな集落だと、高齢化が進み、中山間地域直接支払いなどの事務処理ができない  
⇒一つの考え方として、広域連携という考え方で進めている。

営農だけではなく、地域内交通や買い物支援なども含め、ある一定の広がりを持った区域を単位に、広域で連携をしながら進めようと考えている。

そういった取組みが、県内でも10ヵ所程度は出てきている。

○中心的経営体について、地域で若い方たちの納得を得られず、進まなかった

⇒水田の園芸を進めていくためにも、法人であったり、そうした会社組織が、これからは大宗の生産を担っていってくれることを期待している。

地域で濃淡はあるが、将来的に法人化をして経営を強固にしていこうということが検討されているのも事実としてある。

平成30年度は各地域の再生協議会へ、中心的経営体の話であったり、水田を使った野菜生産について、意見交換していきたいと考えている。

○耕地を守っていくために町でサポート経営体というのを立ち上げたが、県は、これとどのように連携していくか

⇒こうした取組みが広がるような推進は必要と思っはいるが、先に説明した広域連携などとの合わせ技で地域をしっかりコーディネートし、経営していく視点が必要なのかなと思っている。

#### 4 県農業振興に関する目標設定について農林水産総務課から説明

○目標を掲げるのはいいことだが、それが全て細かいところまで下に降りて、すべて合計したものが目標値になるようにしていただきたい

⇒この辺りはまだ検討していきながら、どういった内容にしていくか詰めていきたい。

現時点で考えているのは、プロジェクトを進めていくことで、全体的に上がっていく、そういうものを目標として示したいと思っている。その目標に対して、細かい何か、分割して新しいものをつくるということは、現時点では考えていない。

○この目標は、野心的な高い目標を立てるのか、実現可能な現実的なレベルにするのか

⇒まだ目標を何にするかは正式に決まっていない。

野心的な目標を組むのかどうかということについては、これからじっくり検討していきたい。

○県全体の農業予算をインプットとして、農業産出額がどのくらい出たかという、いわば農政のパフォーマンスのような指標は検討されているか

⇒必ずしも農業産出額につながる予算だけを農林水産部の方で組んでいるわけではない。

産出額を単純に予算で割って、これがパフォーマンスということにはならないと思っている。

○非常に重要な話なので、委員でもしっかり考えてやるということでやっていきたい

こうした質疑のほか、意見・要望などもあった。

閉 会（～16：00）